

景気動向調査

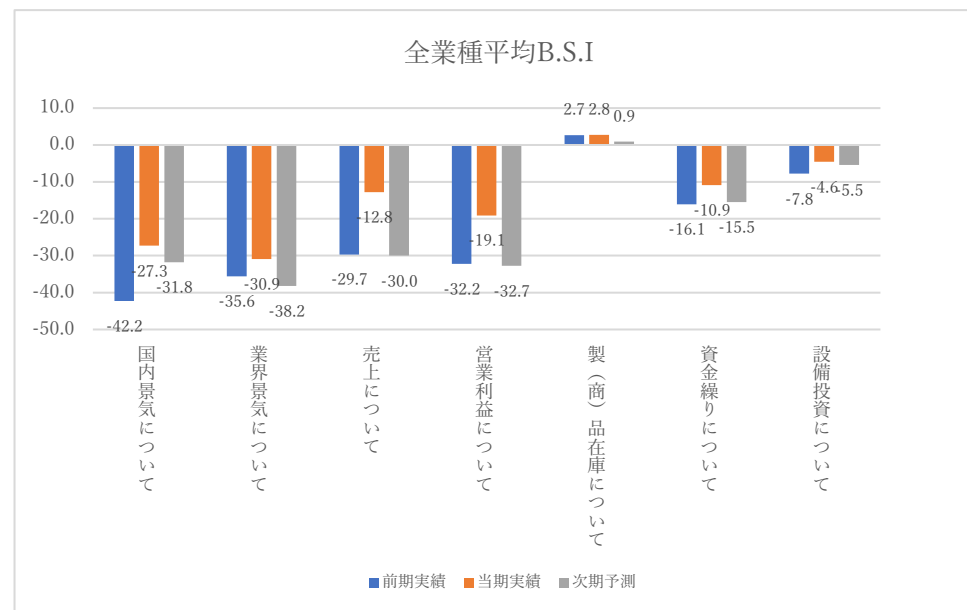
(飲食業、サービス業、卸・小売業、建設業)

令和3年7～12月期

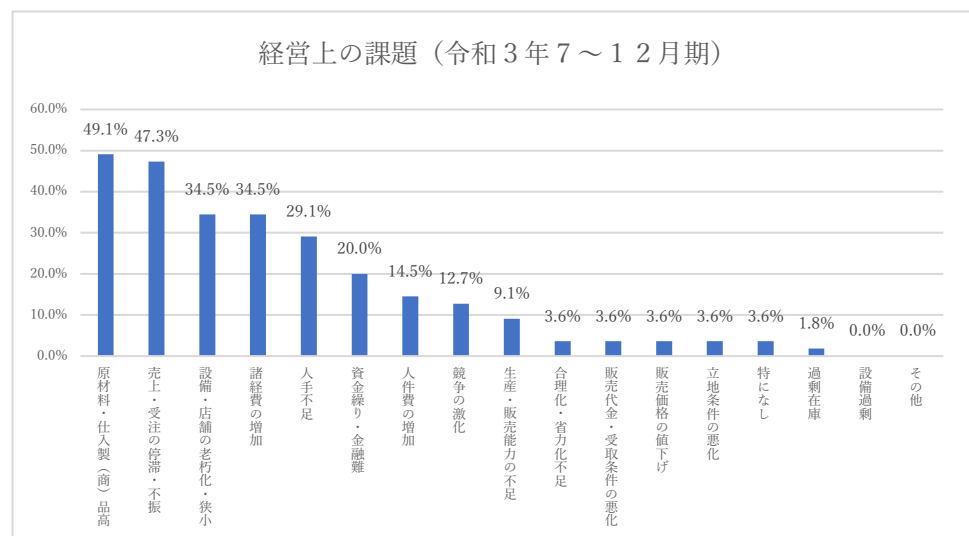
調査概要

調査時期：	令和4年1月1日～1月31日
調査対象時期：	当期：令和3年7月～12月（実績）
	次期：令和4年1月～6月（予測）
調査対象企業：	一般商工業者82社 （飲業、サービス業、卸・小売業、建設業）
有効回答率：	68.3%
調査方法：	郵送によるアンケート方式
調査内容：	① 業界景気、自社景況などの実績と次期予測
	② 経営上の課題
	③ 新型コロナウイルスの事業への影響、行政に望む支援など（自由記述）

※参考① B.S.I値



※参考② 経営上の課題



調査総評

(1) B.S.I値

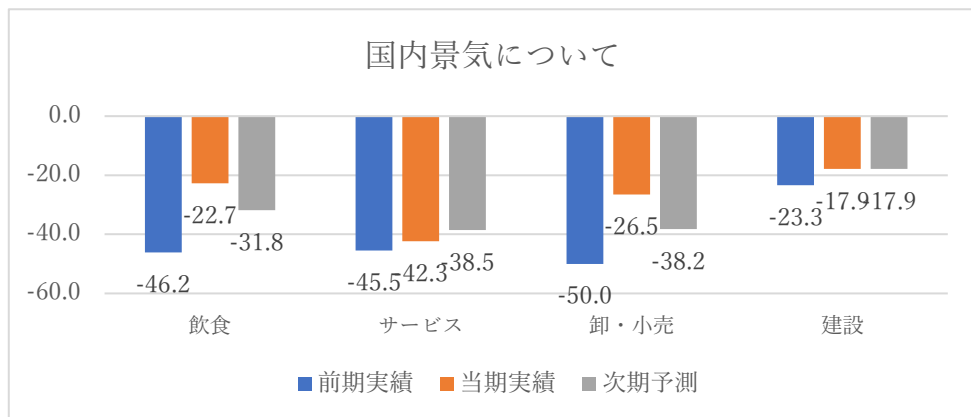
- ・ほとんどの設問項目で、当期実績値は前期実績値より好転していたが、いずれも次期予測は悪化の見込みとなった
- ・特に「売上」は、当期実績値が大きく回復したが、次期予測値が前期実績値と同程度まで落ち込む見込みとなった

(2) 経営上の課題

- ・「原材料・仕入製(商)品高」、「売上・受注の停滞・不振」の二項目は、いずれも50%近くの回答を集めた。

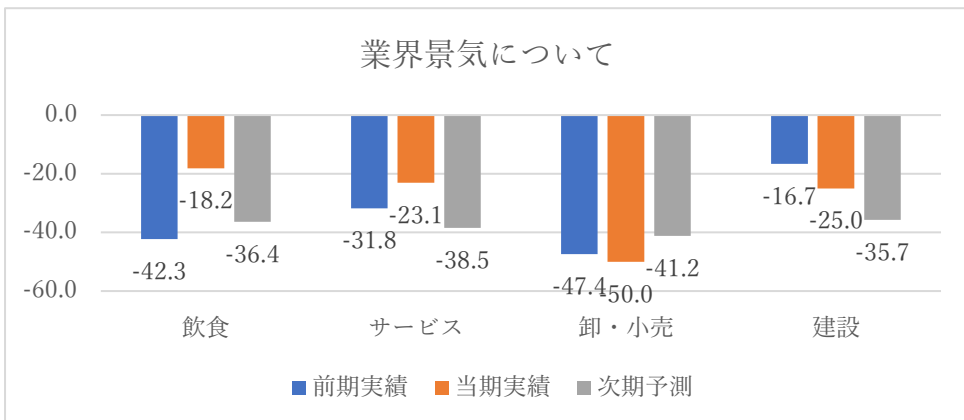
1. 質問 1 集計結果 —B.S.I 値でみる景気動向—

(1) 国内景気



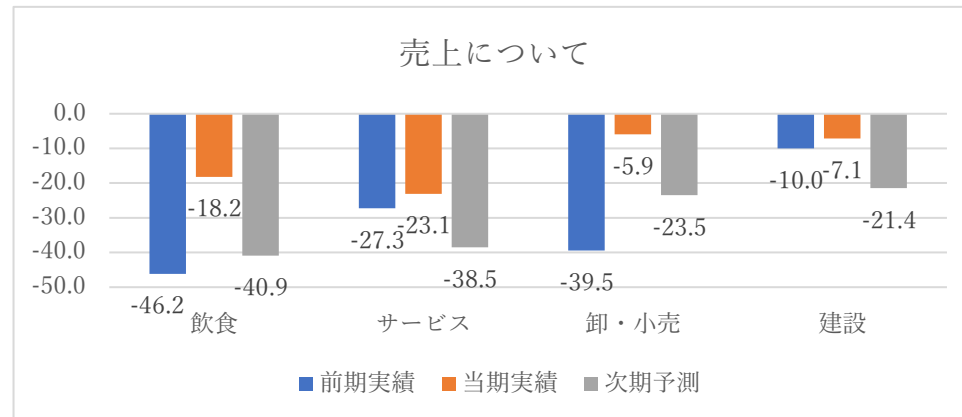
- ・ 飲食業や卸・小売業からみた当期の国内景気は、改善傾向となった
- ・ 一方でサービス業と建設業では、飲食業等のような改善は見られず、次期も低迷が続く予測が出た

(2) 業界景気



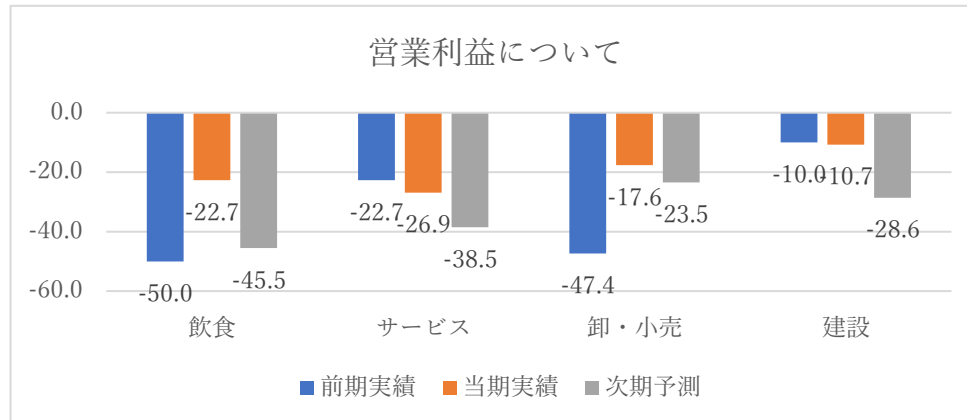
- ・ 飲食業、サービス業の当期実績値は改善
- ・ 一方で、卸・小売業、建設業は、前期と比較して悪化した

(3) 売上



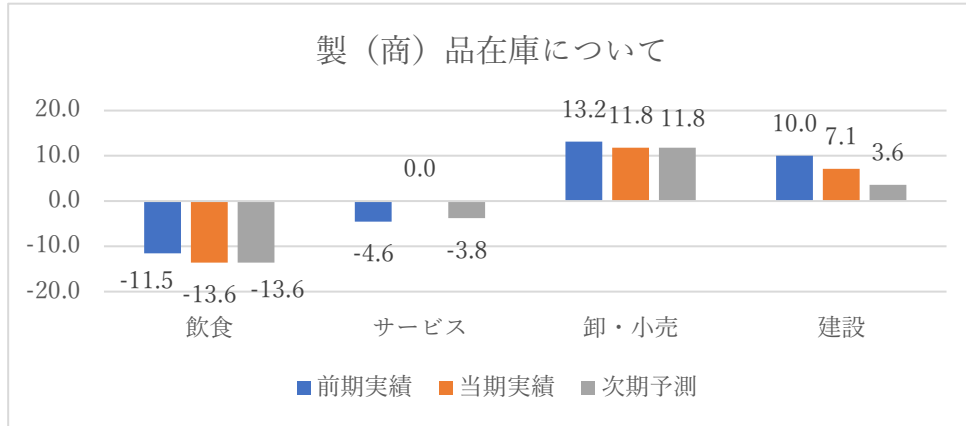
- ・ 各業界の当期実績値は、いずれも前期と比較して良好な数値が出た
- ・ 特に卸・小売業は業界景気と反比例し、前期より約 35 ポイント数値が上昇している

(4) 営業利益



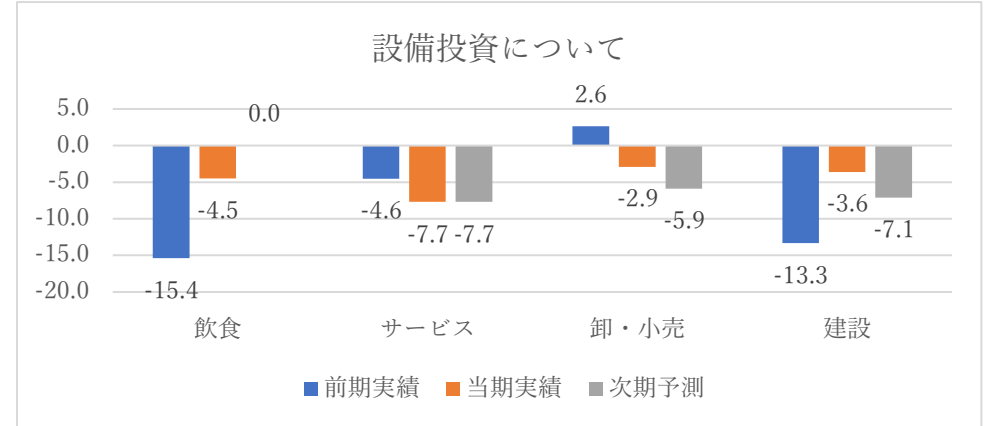
- ・ 飲食業、卸・小売業の当期実績値は大きく改善した
- ・ 一方でサービス業、建設業は苦戦が続き、次期も悪化の見通しに

(5) 製（商）品在庫について（プラスは過少、マイナスは過多）を表す



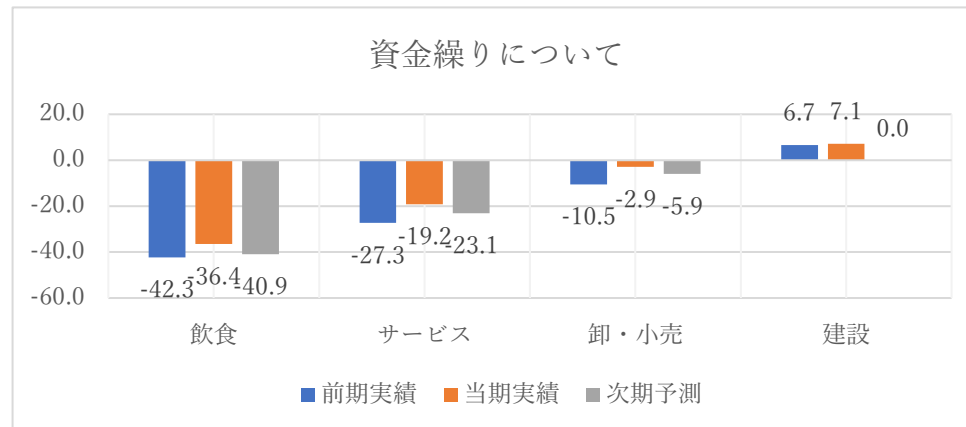
- ・当期実績値において、卸・小売業、建設業は過少を示した
- ・一方で、飲食業は在庫過多に。いずれの業界も次期も同様の状態が続く見込みに

(7) 設備投資について



- ・飲食業、建設業は増加傾向
- ・サービス業、卸・小売業は若干数値が落ち込むも、当期と大きな変化はない見通しに

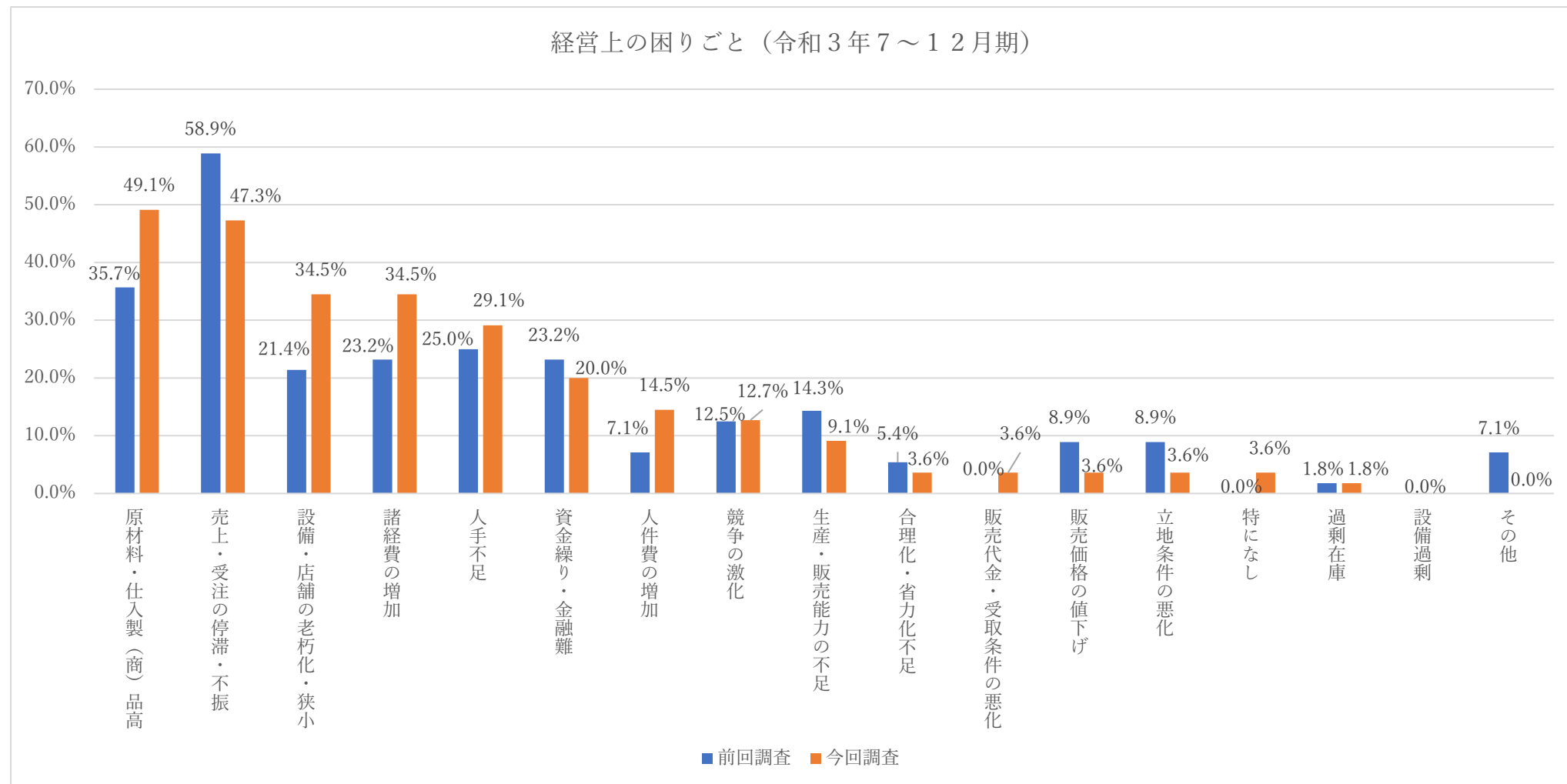
(6) 資金繰りについて



- ・業種により差が出る結果となった
- ・特に、飲食業は前期から時期にかけて苦しい状況が続く見通し
- ・建設業は唯一プラスの数値を記録。次期は若干落ち込む予測に

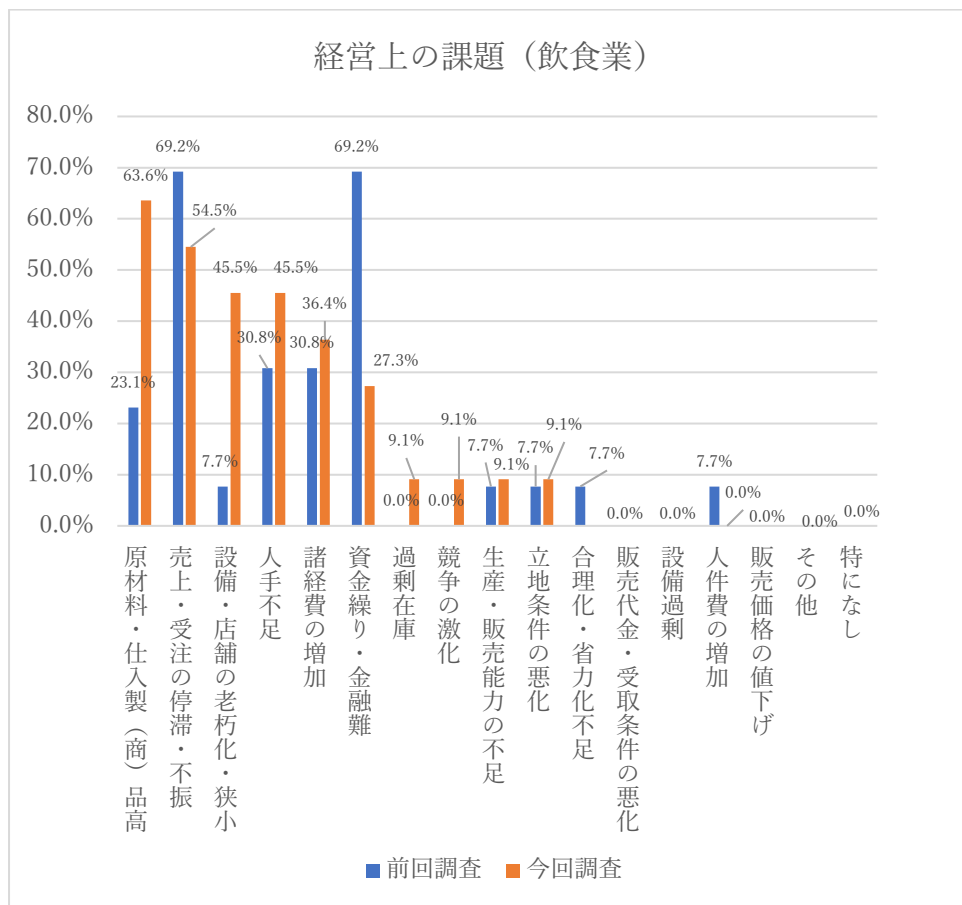
2. 質問 2 経営上の課題 －業種別経営上の課題－

(1) 全業種集計



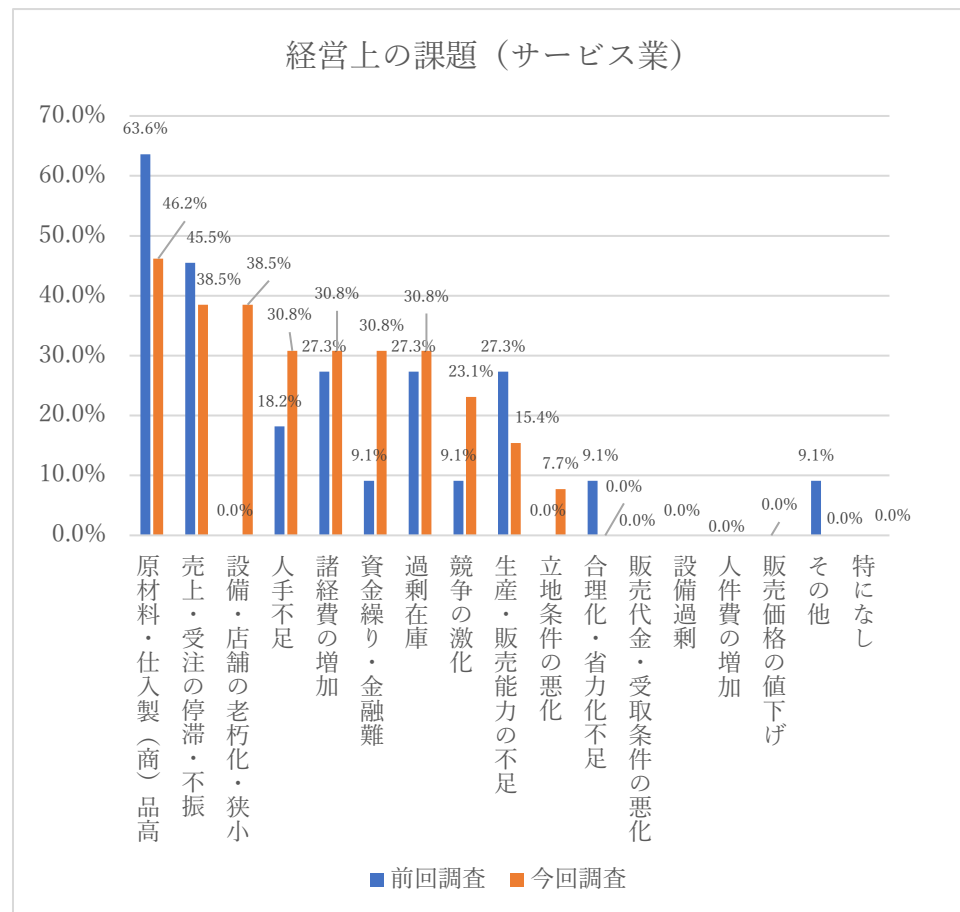
- ・ 前回最も回答が多く集まった「売上・受注の停滞・不振」は、前回調査から約 11 ポイント減少
- ・ 一方で「原材料・仕入製（商）品高」など三項目では、前回より約 10 パーセント以上、回答率が上昇した

(2) -1 業種別（飲食業）



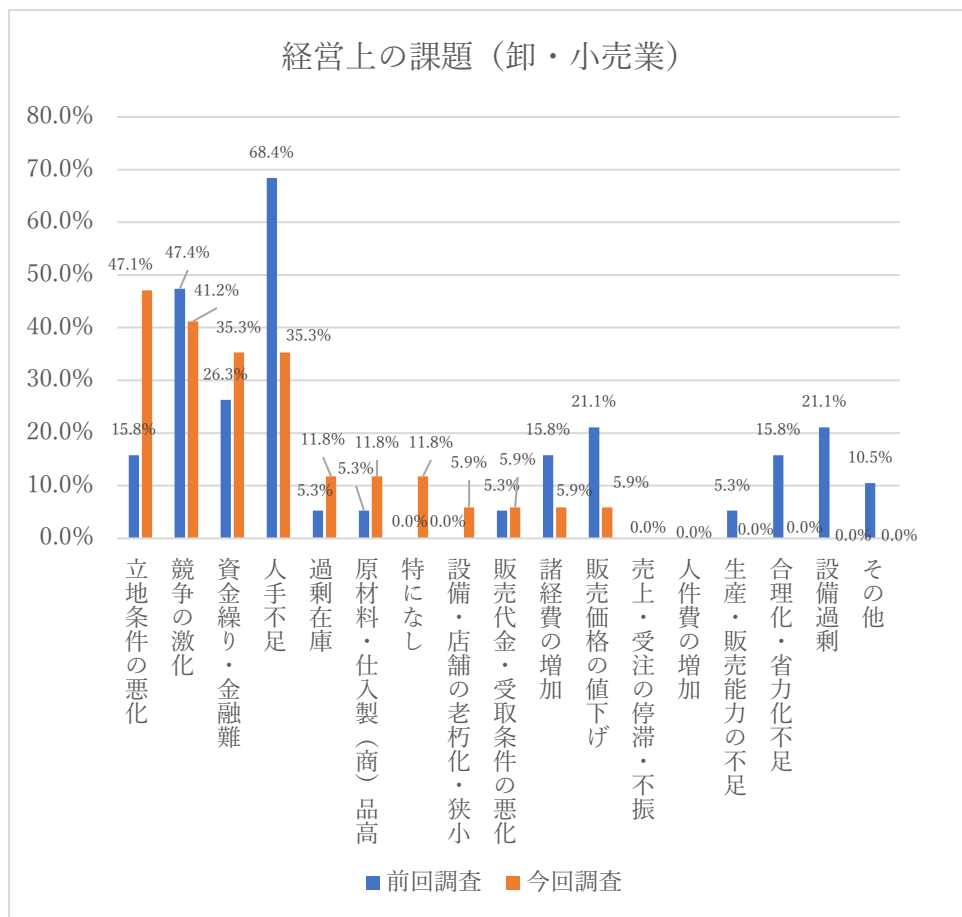
- ・前回「売上・受注の停滞・不振」と並んで最も回答を集めた「資金繰り・金融難」は、約 40 パーセント減少している
- ・一方で「原材料・仕入製（商）品高」が約 40 パーセント増加。「設備・店舗の老朽化・不振」も大幅に回答率が上がっている

(2) -2 業種別（サービス業）



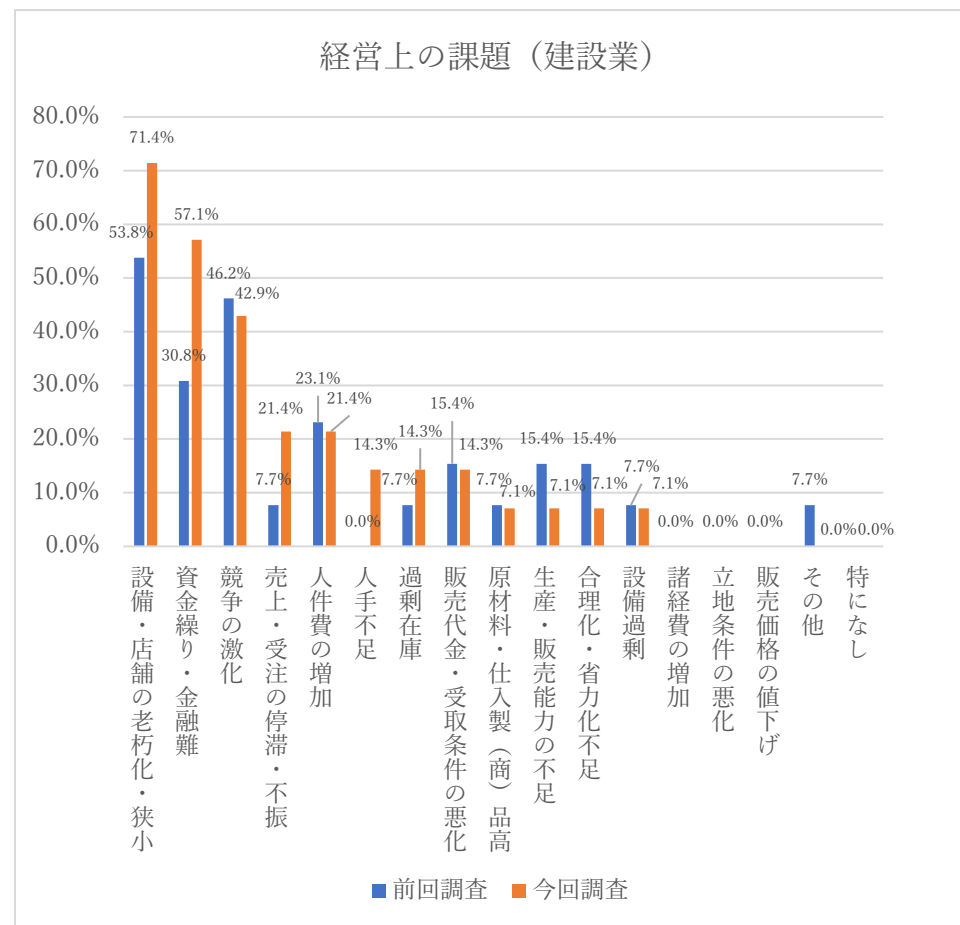
- ・「原材料・仕入製（商）品高」、「売上・受注の停滞・不振」の回答は減少傾向も、他項目と比較して高い位置で推移している
- ・前回回答がなかった「設備・店舗の老朽化・不振」は 38.5%増加

(2) -3 卸・小売業



- ・前回最も多くの回答を集めた「人手不足」は約 30 パーセントの減少
- ・一方で「立地条件の悪化」は約 30 パーセントの増加。今回調査で最も多くの回答を集めた
- ・他業界に見られない特徴として、「競争の激化」に多くの回答が集まっており、前回から高い数値で推移している

(2) -4 建設業



- ・「設備・店舗の老朽化・狭小」に多くの回答が集まっており、「競争の激化」とともに、前回から高い数値で推移している
- ・「資金繰り・金融難」への回答も多く、前回より約 36 パーセント増加している

3. 新型コロナウイルスの事業への影響、行政に望む支援など（自由記述）

○新型コロナウイルスの事業への影響

- ・ 新型コロナウイルスの終息が見えない中、諸経費は増加傾向にある。
景気が良くない中での値上げが続いており、不安に思っている
- ・ 1月中旬時点でオミクロン株の増加により、人々の外出機会が奪われ、この先数か月はさらに商売機会が減少すると考えている
- ・ 仕入値や経費は上がる一方で、税金の支払いも経営を圧迫している要素の一つ
- ・ 出張機会が無くなり、思うような仕入ができていない
- ・ 新型コロナウイルスの影響で商品の生産が遅れており、仕入れが滞っている。店舗の品ぞろえが不十分
- ・ 観光（土産品）部門の売上見通しが立たない

○新型コロナウイルスの流行拡大に関すること

- ・ エssenシャルワーカー向けのワクチン追加接種機会の追加
- ・ 従業員の感染防止に向けた取り組みへの指導

○望む支援内容

- ・ 持続化給付金の継続
- ・ 特定業種によらない、迅速で柔軟な支援を求めたい
- ・ 融資条件の緩和（運転資金）
- ・ 借入金の返済猶予
- ・ 様々な制限が解除になっても、経営の正常化は当分見込めない。
給付金等、息の長い支援をお願いしたい
- ・ 減税措置
- ・ 休業や時短営業に対する支援の継続（発令時）
- ・ 例えば、売上減少率が20%程度の事業者も対象にするなど、給付金の支給条件を緩和してほしい
- ・ 集客機会を作してほしい。これだけ人々の生活に制限がかかっていると、個々の力では難しい
- ・ 企業マッチング機会の支援

参考

B.S.Iとは

- ・「 Business Survey Index (ビジネス・サーベイ・インデックス)」の略で、景況判断指数のひとつ
- ・現在の景気水準をはかる DI (ディフュージョン・インデックス) に対して、B.S.I は前期と現在の景気状況を比較するため、景気の方角性を判断できる
- ・下記の計算式で算出された数値が、プラスであれば景気に対する判断は上向き、マイナスであれば下向きと判断する

計算式：(「上昇：好調の要素」－「下降：不調の要素」) ÷ 2

※最大値はプラスマイナスいずれも「50」となる

質問 1

以下の項目について、当期実績および次期予測を伺います。選択肢から該当するものを選び解答欄にご記入ください。

	項 目	回答欄	
		当期実績	次期予測
1	国内景気について 1. 良い 2. やや良い 3. 不変 4. やや悪い 5. 悪い		
2	貴業界景気について 1. 良い 2. やや良い 3. 不変 4. やや悪い 5. 悪い		
3	貴社 売上について 1. 増加 2. やや増加 3. 不変 4. やや減少 5. 減少		
4	貴社 営業利益について 1. 増加 2. やや増加 3. 不変 4. やや減少 5. 減少		
5	貴社 製（商）品在庫について 1. 過少 2. やや過少 3. 不変 4. やや過多 5. 過多		
6	貴社 資金繰りにについて 1. 容易 2. やや容易 3. 不変 4. やや困難 5. 困難		
7	貴社 設備投資について 1. 増加 2. やや増加 3. 不変 4. やや減少 5. 減少		

